

92 田原市伊良湖岬の三波川帯

いらごみさき

伊良湖 岬 は渥美半島の南西端（伊良湖岬山地西端）にあります。中央構造線に沿って分布する三波川変成帯にあり、強い圧力を受けてできた広域変成岩が見られます。



苦鉄質片岩（地点 B）



砂質片岩（地点 A）



変成玄武岩？（地点 C）

三波川帯の南側にそって分布する地域は御荷鉾^{みかぶたい}帯（御荷鉾ユニット）と呼ばれ三波川帯と区別されることがあります。伊良湖岬は珪質片岩や苦鉄質片岩・変成玄武岩溶岩などからできています。このユニットの変成岩類の多くは片理の発達が悪く、珪質片岩は苦鉄質片岩を伴う場合が多いようです。古山（伊良湖）、宮山、骨山（現伊良湖オーシャンリゾート）などに見られます。伊良湖から伊良湖灯台にかけては砂質片岩、珪質片岩、苦鉄質片岩などが見られます。

苦鉄質片岩：緑泥石及びアクチノ閃石が濃集した暗色部とアルバイト及び緑れん石が濃集した明色部が層状に繰り返します。淡緑色から青緑色で片理が発達します。

変成玄武岩溶岩：塊状緑色-暗緑色で塊状ないし弱い片理が発達しています。

砂質片岩：伊良湖岬北岸に分布し、灰色ないし黄灰色です。泥質片岩に比べ片理の発達が弱く、石英及び斜長石の碎屑粒子を多く含みます。



恋路ヶ浜から伊良湖灯台までの間にみられる御荷鉾帯の変成岩類

津波石

御荷鉾帯の岩石の上に、その構成岩類と異なる巨岩がいくつか見られます。以前はもっとたくさん見られたのですが現在はかなり除去されています。これらの異地性の岩塊は津波石だとする考えがあります。

恋路ヶ浜の海拔約 8m の緩斜面の調査では、約 6,000 年分の地層から津波堆積物が 6 層見つかっています。最も地表に近い層は、1707 年の宝永地震または 1498 年の明応地震による津波のものであるとされています。

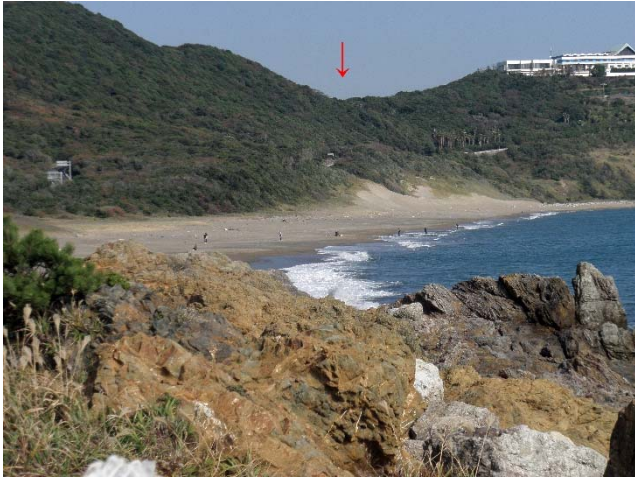


恋路ヶ浜

伊良湖岬灯台から東方の日出の石門まで太平洋沿いに約 1km にわたり、恋路ヶ浜とよばれる海浜が広がっています。「恋路ヶ浜」の名は江戸時代につくられた和歌にも詠われているそうです。島崎藤村の抒情詩「椰子の実」の舞台となったことでも有名です。柳田國男から恋路ヶ浜に流れ着いた椰子の実の話を聞いた島崎藤村が明治時代に執筆した詩です。

また、恋路ヶ浜では 2～数 cm の三稜石（風食礫）が報告されています。

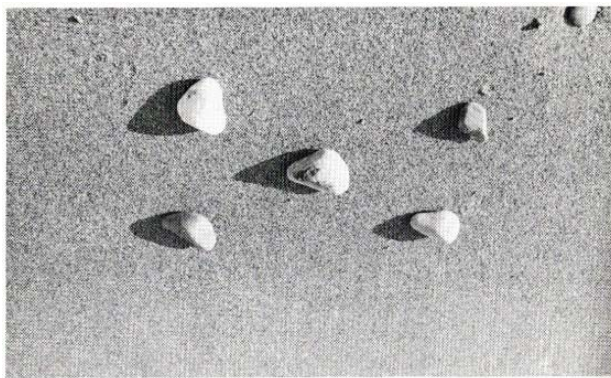
三波川帯（御荷鉾帯）と神島－伊良湖断層と呼ぶ高角の断層で接し、その外側（太平洋側）に秩父帯があります。神島－伊良湖断層は三重県鳥羽市神島では神島断層と呼ばれ地形にもはっきり現れています。



恋路ヶ浜 中央谷間に神島－伊良湖断層が走ります
(矢印右側が秩父帯です)

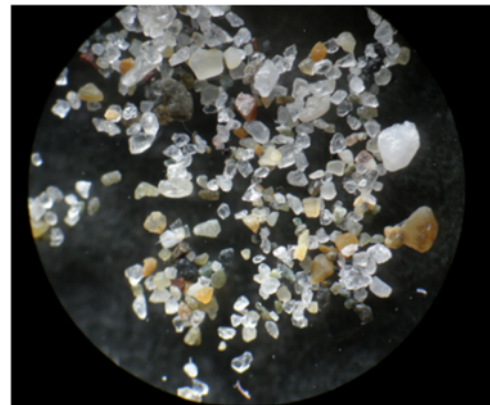


恋路ヶ浜 遠景の島は神島
山の右手急斜面が断層の位置です



表浜で見つけられた三稜石

三稜石（豊橋地学同好会，1980）



恋路ヶ浜の砂

参考文献

村松憲一，2019，愛知県の地質とジオサイト 人と大地との関わり 第二版．189p.

中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2008，豊橋及び田原地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，113 p.

中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2010，伊良湖岬地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，69 p.

豊橋地学同好会，1980，とよはし地学めぐり．豊橋地学同好会，136 p.

【村松憲一】